



ウクライナの戦争の影で・・・

文責 フラッセル日本人学校補習校
校長 佐藤 博

いつもいつもおふざげが過ぎるこの通信ですが、たまには真面目なお話を・・・

みなさんもニュースなどで知っているとは思いますが、ウクライナの戦争が始まってまもなく1年が過ぎようとしています。今でもミサイルなどが落とされ、多くの人が亡くなったニュースを聞くと心が痛みます。そしてここベルギーは同じヨーロッパ圏内で生活しているためか、ウクライナのことを心配している人が日本よりも多く、中には家のベランダからウクライナの国旗を掲げ「応援しているよ」というメッセージを発している方も結構いらっしゃいます。

以前、この通信の第5号で紹介したように、長崎から派遣されている以上、平和に対する思いをきちんと伝えるのも自分の役目ではないかという思いもあり、いろいろな学年で平和学習をしてきました。その中でウクライナの現状についても少しですが伝えたのですが、どの学年の子どもたちも、ウクライナの戦争については高い関心を示していました。近くで起きているということもありますが、電気代やガソリン代が以前よりも高騰するなど、自分たちの生活に大きな影響を与えていることもその原因の一つかと思われます。

さて、実は昨年の12月、ある方から紹介され、ブリュッセル市内にある「ウクライナ人学校補習校」を訪ねてみました。日本人学校から車で20分くらい行ったところにある公立学校の校舎を土曜日だけ借りて、ここの補習校と同じように、ウクライナの勉強をしている学校です。4月くらいまでは児童生徒合わせて100人くらいの学校だったのに、5月くらいから急に子どもの人数が増え始め、多い時は400人もいた

とのこと。その多くが戦争から避難してきた子どもたちだそうです。私が訪問した日は、ある団体が子どもたちのために人形劇を見せていたのですが、実際に子どもたちにとって見ると日本の子やベルギーの子と何の変りもありません。私が日本人とわかると「ありがとう!」と言ってきました。おそらくこの子たちの知っている唯一の日本語だったのでしょ。

その後、ある場所に子どもたちの絵が置いてあるのを見てショック!!・・・右の兵隊の絵、実はここで描いた絵を戦地で戦う兵隊さんに届けるのだそう。まるで戦時中の日本を見ているようでつらかったです。また帰りに通った玄関ホールに置いてあったクリスマスツリーの下に置いてあったプレゼント、中身はジャガイモやパンがたくさん入っていました。聞いたところによると、これも作ったカードと一緒に戦地の兵隊さんに送るのだそうです。クリスマスツリーの下には子どもたちへのプレゼントを置いているのが普通なのですが、戦争ってそういった当たり前の日常を壊していくものなんですよ。だからこそ、はやくこの世から戦争を無くしていかないとけません。ウクライナ人学校を訪問し、あらためて戦争の恐ろしさを感じました。



補習校も日本文化を満喫しています



1月から2週間にわたって、補習校では日本文化を体験できる行事が続きました。1月7日は「お正月デー」、1年生はコマ回しや羽子板など様々なお正月の遊びを体験し、2年生以上は書き初めに挑戦です。日本と同じように「春の海」の琴の音が流れる中、みんな一生懸命書きあげました。また次の週の1月14日は「餅つき大会」、これはPTAのお母さん方が大活躍、参加したすべての児童生徒にしょうゆ餅ときな粉餅をふるまうため、朝から炊いたお米は何と24升!本当にありがとうございます。代表で中学部3年生と先生も杵と臼を使って餅つきをしました。今の時代、日本にいてもなかなか杵と臼を使った餅つきの体験などはできなくなってしまいましたが、それが、ここベルギーで体験できるなんて思ってもいませんでした。みんな美味しそうに食べていましたよ。

